

Press Release & Conference



日本大学 平成 25 年 10 月 7 日

新聞学研究所：大井眞二（研究プロジェクト代表）

「現代日本のジャーナリスト像」：

Worlds of Journalism Study (WJS) 「日本調査」を読み解く

日時：2013 年 10 月 21 日（月） 午後 2 時～3 時半

場所：日本記者クラブ（日本プレスセンタービル 9 階）

東京都千代田区内幸町 2-2-1

1. 調査目的

世界の多様なジャーナリズムの文化を明らかにするため、「共通の質問紙」を使った国際比較調査 (WJS <http://www.worldsofjournalism.org>) が現在実施されています。本調査はこの WJS に基づく日本調査です。いずれの国でも通常、メディアはナショナルに組織され、焦点もナショナルになります。重要なニュースがどのように扱われるかは、当該国の政治・社会のシステムだけでなく、その国のジャーナリズムの文化に大きく依存します。本調査は、「日本のジャーナリズム文化」の特徴を明らかにする調査です。今回の記者発表・会見では、この調査結果の報告だけでなく、若干の国際比較を試みる予定です。

2. 調査概要

①調査主体：日本大学法学部新聞学研究所（本調査・研究は、日本大学学術助成金[総合]（平成 23～24 年度）の助成を受けている）②調査対象者：日本在住のジャーナリスト ③標本抽出法：有意抽出法（新聞社・通信社・放送局は悉皆、各社ごとに発送割付数を設定）④調査実施法：託送調査法（対象社単位に一括発送し、個人対象者からは個別に返送）⑤実施期間：2013 年 2 月から 3 月末 ⑥配票数：2200 票 ⑦回収数：140 社から 747 票 回収率：33.9%

3. 調査項目

①ジャーナリズムの役割概念、②役割の遂行度、③変化するジャーナリズム環境の影響、④倫理的な問題の評価、⑤職業的自律性、⑥オンラインメディアの影響評価、⑥ジャーナリズムの問題点、⑦改善のための方策、⑧デモグラフィック属性、など。

4. 調査結果

当日、別紙で調査結果の速報を配布致します。

5. 参加について

参加は無料です。会場の都合上、メールアドレス (j-pressrelease@law.nihon-u.ac.jp)

までご氏名、ご所属と参加希望のみを記入し、10 月 15 日までにお知らせ下さい。

お問い合わせ先

大井眞二（日本大学法学部新聞学研究所プロジェクト代表）

〒101-8375 東京都千代田区三崎町 2-3-1

携帯電話 090-4700-8250 E-mail: shinoi@law.nihon-u.ac.jp